

「ASEANスマートコールド チェーン構想」検討会の進め方

2018年7月3日

株式会社富士通総研

1. ASEANにおけるコールド チェーン物流の必要性

1-1. コールドチェーン物流とは？

■ コールドチェーン物流の定義

- コールドチェーン物流: 温度管理が必要な製品に関する原料の調達・生産・流通・販売までの一貫したサプライチェーン
→ ASEANでは肉・魚・野菜・果物等の 生鮮食品が主な対象

[肉]



[野菜・果物]



■ ASEANにおけるコールドチェーン物流の効果

- 衛生的で、栄養価の優れた生鮮食品の普及
 - 消費者は高温・多湿な気候であっても、新鮮・美味しい生鮮食品を食べられる
- 食品ロスの削減
 - 流通過程で品質が劣化して廃棄される食品ロスを削減できる: 持続可能性の確保
- ライフスタイルの変化に合わせた、便利な食生活の実現
 - 都市化に合わせた安全な外食の普及や食品を購入する手間の削減

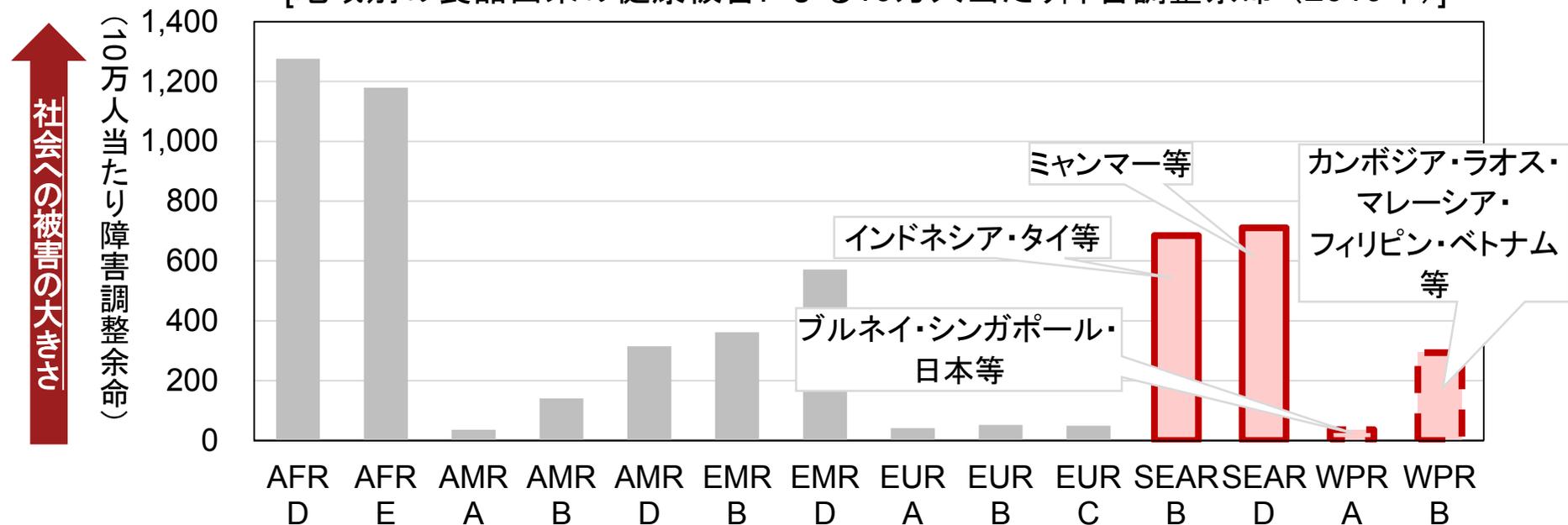
1-2. アフリカに次いで食品由来の健康被害が大きいASEAN

■ 食品由来の健康被害：食中毒等

- アフリカやアジアなど高温の地域では食品由来の健康被害の被害が大きい
- 高温・多湿なASEANではインドネシア・タイ、ミャンマーはアフリカ地域に次いで健康被害が大きい

→ ASEANは食品の安全性の向上が必要：コールドチェーン物流は生鮮食品の品質を保持して安全性の向上に貢献

[地域別の食品由来の健康被害による10万人当たり障害調整余命 (2010年)]



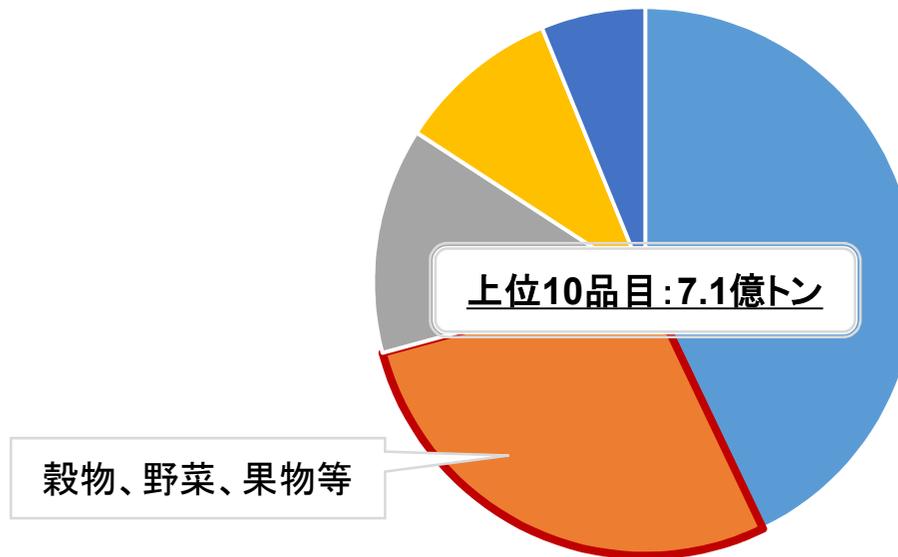
資料：「WHO Estimates of the Global Burden of Foodborne diseases」(WHO/2015(年))より作成

1-3. 穀物や野菜、果物等の食品ロスが多いASEAN

- 世界では13億トン程度の食品ロスが発生→SDGs12「持続可能な生産消費形態の確保」で食品ロスの削減が打ち出される
 - 食品ロスが多い上位10品目(7.1億トン)では、ASEANを含む「南・東南アジア」が15.3%を占めて、日中韓の「産業化アジア」に次いで多い
 - ASEANでは穀物や野菜、果物等の食品ロスが多い
- コールドチェーン物流は原料調達～販売までの生鮮食品の品質を保持し、流通段階での食品ロスの削減に貢献

[食品ロスが多い上位10品目の地域別の発生状況]

■ 産業化アジア(中国・日本・韓国) ■ 南・東南アジア ■ 欧州 ■ サブサハラアフリカ ■ 南米

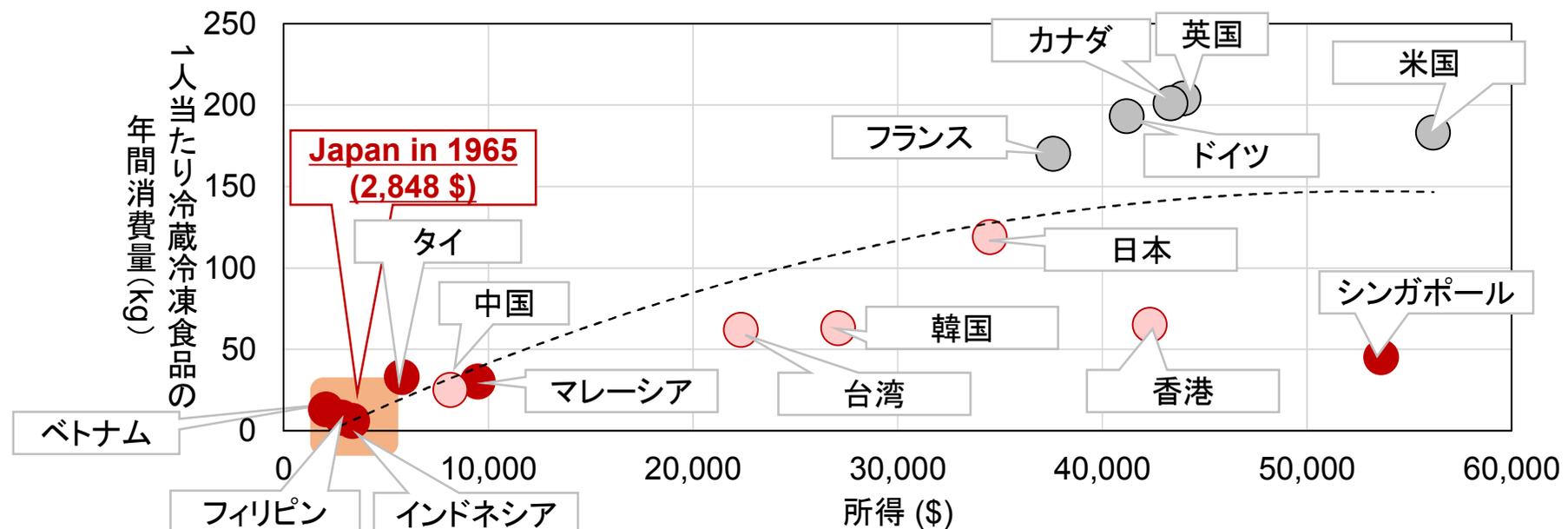


資料:「Food Wastage Footprint Impacts on Natural Resources」(FAO/2013年)より作成

1-4. ライフスタイルの変化に合った食生活

- 冷蔵冷凍食品は所得の上昇に合わせて消費量が増加
 - 都市化が進んで外食が増加
 - 食事の度に市場に食品を購入することは費用対効果が悪化：
冷蔵庫を購入して生鮮食品はまとめ買いして保存(3,000ドルが閾値)
- インドネシア・フィリピン・ベトナム等は日本で「コールドチェーン勧告」が打ち出された1965年頃の状況であり、冷蔵冷凍食品の消費量の増加が見込まれる
- アジアは欧米と比べて冷蔵冷凍食品の消費量が少ない
 - 「生もの」を好む文化？：消費者の意識啓発(食育)が必要

[所得(2015年)と1人当たり冷蔵冷凍食品の消費量(2013年)]

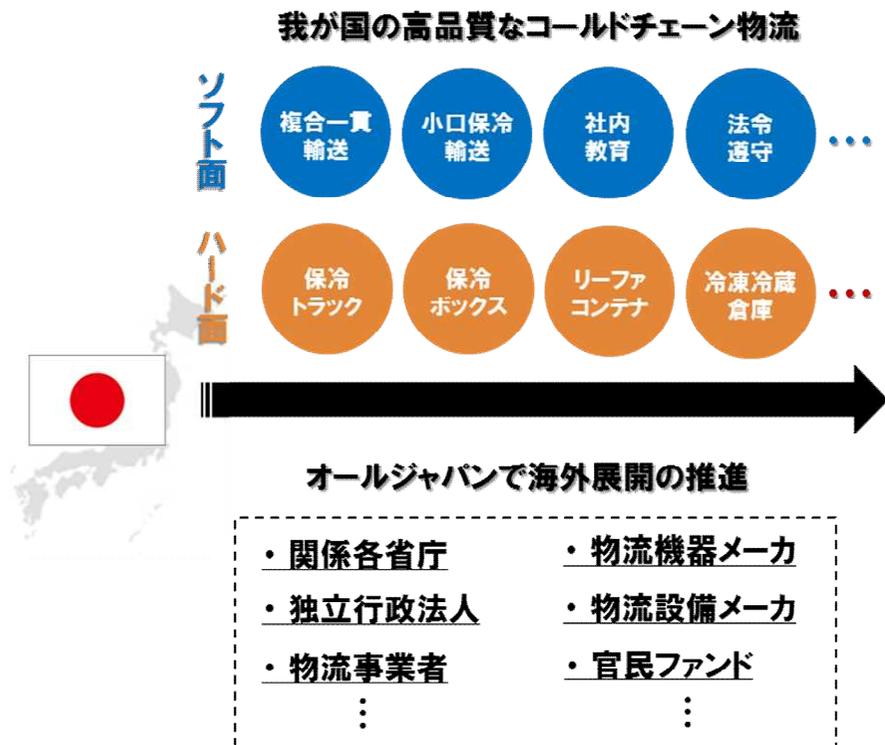


資料: 政策投資銀行・IMF・内閣府資料より作成

2. 検討会の進め方

2-1.ASEANスマートコールドチェーン構想 FUJITSU

- 日本の質の高いコールドチェーン物流を官民一体となってASEAN地域へ展開し、経済成長著しいASEAN地域の物流需要の獲得を図るとともに、ASEAN地域において、シームレスかつ高付加価値で環境負荷のかからないコールドチェーン網の構築を促進し、ASEANの社会・経済の発展に寄与する。



ASEANスマートコールドチェーン構想

ASEAN地域において、シームレスかつ高付加価値で環境負荷のかからないコールドチェーン網の構築を促進し、ASEANの社会・経済の発展に寄与する。



⇒ ASEAN地域への海外展開に向けた7つの視点(SCIENCE)に基づき、オールジャパンで取組を実施。

2-2.取組の7つの視点 (SCIENCE)

- ASEAN地域へのコールドチェーン物流の海外展開を推進する上で、以下の7つの視点 (SCIENCE)を踏まえ、オールジャパンで戦略的に取り組んでいく。

【ASEAN地域への海外展開に向けた7つの視点 (SCIENCE)】

Standardization

- ✓ 日本の優れたコールドチェーン物流サービスや物流機器等を国際標準化し、普及させることにより、日系物流関連業の海外展開を支援。



New Technology

- ✓ 新技術等を活用した高付加価値な物流ソリューションにより、ASEAN地域の物流の質の向上に貢献。



Collaboration

- ✓ 各省庁、独立行政法人、物流事業者、機器・設備メーカー、官民ファンド等、幅広い主体の協働によりオールジャパンで海外展開を推進。



Capacity building

- ✓ ASEANの現地の物流人材育成を加速化させ、進出した日系企業の円滑なオペレーションを可能にする。



Infrastructure

- ✓ 高品質なコールドチェーン物流サービスを下支えするインフラ（道路、港湾、空港、鉄道倉庫等）整備をASEANにおいて重点的に推進。



Economical

- ✓ 常に荷主や消費者に対する物流コストの低減を意識し、高品質と低廉なコストを両立した筋肉質なコールドチェーン物流を展開。



Environment

- ✓ 地球温暖化対策等、環境負荷低減の取組を着実に進めるとともに、当該分野における日本企業の強みを海外展開に生かす。



2-3. 検討会の進め方

■ スマートコールドチェーン構想の実現に向けた検討会での取り組み

■ 国内検討会の開催

→ 関係省庁、関係機構、物流団体及び物流事業者等が一同に集結し、我が国の物流事業者にとって更なるビジネス展開に繋がる5カ年の中期的な取り組み、スケジュール、役割等を検討。

【Ex.】

- ✓ 各省庁・機関の政策および支援ツールの共有
- ✓ ヒアリング等による物流関連の課題の整理
- ✓ 中期的なコールドチェーン物流促進の議論

■ 重点国(地域)設定

→ コールドチェーン物流が高需要であり、また我が国物流事業者の進出があるいは進出予定国を重点国として3、4ヶ国設定。

■ ビジョン&戦略策定

→ 物流に関する課題に対して関係省庁や機構のASEAN各国への政策や支援ツールのマッピングを行い、我が国の物流関連事業者にとってビジネス展開に繋がる将来的なビジョンと具体的な戦略を策定。

インプット

アウトプット

2-4. スケジュール

- 第1回検討会での関係機関の情報提供を受けて、第2回検討会にかけて **ヒアリング等**を行いながら、重点国(地域)とビジョン・戦略の案を検討し、第3回検討会で取りまとめ
→委員・オブザーバー、関係機関にはヒアリング等へのご協力をお願いします！

[検討会のスケジュール(案)]

	2018年						2019年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点国(地域)の選定	→		→				→		
ビジョン・戦略の検討	→		→				→		
検討会	① 7/3				②			③	

[検討会の議題(案)]

回数	議題(案)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討会の進め方の確認 ■ 関係機関によるASEANにおけるコールドチェーン物流促進の取組と意見交換 等
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヒアリング等の取纏め結果の報告 ■ 重点国(地域)とビジョン・戦略の方向性について議論 等
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重点国(地域)とビジョン・戦略について最終議論し、決定